

○渡辺議長 次に、田村議員。

〔田村議員質問席へ〕

○田村議員 会派緑風会、打って出る米子市を目指す田村謙介でございます。先般行われました市議会議員選挙で、私、4期目の議席を頂戴することができました。御支援いただいた皆様方に心から感謝を申し上げますし、引き続き本市を打って出る米子市として前向きに進めていく、そういった気概で頑張ってまいりたいと思います。どうぞよろしく願いをいたします。また、このたび、緑風会という新しい会派を結成いたしました。私と新人議員2名、3名ということでございますが、この米子に吹き流れる爽やかな緑の風をイメージしております。皆様の声をしっかりと届ける会派として頑張っている所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、今回は、自治会のデジタル化推進について・1、そして、米子城跡の復元とにぎわい創出について・21ということでお伺いをしてまいります。当局の明快な御答弁を期待申し上げます。

まず最初に、自治会のデジタル化推進においてのその前段として、本市は、現在の自治会の現在の課題について、どのような認識を持っておられるのかお伺いします。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 多くの自治会が、かつて自治会の活動やイベントを通じて行ってきたつながりづくりでございます。これが、コロナ禍以降に、どう再構築していけばよいかということについて苦慮しておられるというふうに聞いております。また、新たに自治会へ加入するケースというのが非常に少なくなっておりまして、役員の負担感が大きいことなどから、担い手不足が大きな課題であると

いうふうに認識しております。以上です。

○渡辺議長 田村議員。

○田村議員 これについては、私も、自治連合会の会合に何回か出させていただきまして、皆様から様々なお話を頂戴しておりました。どの自治会さんも、やはり安泰ではなく、持続可能性について非常に頭を悩ませておられるという現状がかいま見えましてし、今までのように、輪番制で役員を回すのではなく、手挙げ制でやっていただくとか、そういったスキルを持った方にお願いをしていくというような従来とは違うやり方で何とか安定していると、そういったお話も聞いて、感心をしたところであります。私も平成25年度と29年度、2回、自治会長をさせていただきました。百四十数軒の自治会でありましたけれども、やはり各班長さんとの調整であるとか、あと、先ほども言った自治会の構成人数の減少であるとか、役員の成り手不足、そういったものを私も目の当たりにしておりました。

そういった中で、今、デジタル化というものが推進されようとしております。本市は、デジタル化のメリット、そして、デメリットについて、どのように認識されてらっしゃるのかお伺いします。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 まず、メリットでございます。自治会内や役員間での情報共有の円滑化のほか、自治会の情報がいつでも確認できることによる自治会活動の参加促進などが考えられます。また、配付物でございます、の減少による負担軽減というのも期待できるところでございます。その一方、デメリットでございますが、デジタル端末の所有でございますとか、操作に関して、会員に差が生じることでございます。それから、デジタル技術とこれまでの手法、

紙で配ったりだとか、手動で行ったりということになりますが、これが併存することにより、負担感を感じるなどが予想されます。以上です。

○渡辺議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。やはり併存してしまうんだということは、市としても認識していただいているというところでございますが、そもそも市内での自治会の現在の未加入であるとか、解散してるとか、そういった状況というのは、今どうなっているんでしょうかお伺いします。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 市内の自治会数につきましては、今年の4月現在で409の自治会がございます。自治会の加入世帯が減少したことによる合併や解散などによりまして、例えばですけど、令和5年の4月からの3年間で5の自治会が減少しているところがございます。また、団地や分譲地等の複数の住宅で自治会に加入しないでありますとか、自治会を結成しないといった状況があるということも認識しております。以上です。

○渡辺議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。非常に残念なお話だなというふうに思いました。

自治会の、ここはおさらいなんですけど、主な役割と機能ということで、4つあるということでございます。まずは、防災、防犯の活動、防災訓練や実施、避難所の運営などの訓練、そして、防犯灯の管理、先ほど鷺尾議員もおっしゃっておられましたが、そういったもの、あと、子どもたちの登下校の見守り、高齢者など要支援者の

見守り、そして、生活環境の維持ということで、ごみ集積場の維持管理とルール啓発、公園や道路などの地域での清掃、美化活動、そして、情報共有と行政との橋渡し、回覧板や掲示板を通じた行政からのお知らせや地域の連絡事項の伝達、そして、地域の要望、街路灯の設置、道路の補修などを取りまとめ、行政へ改善を求める陳情活動、そして、最後に、親睦、コミュニティ形成として祭りや運動会、文化祭など、地域行事の開催を行うことによって、住民同士が顔見知りになり、いざというときに助け合える関係、共助の関係づくりを行うというのが主な役割でございます。この加入率が、今非常にそれが下がっておって、行政の一翼を担う自治会の活動というのがやはり立ち行かなくなりつつあるということで、そのデジタル化というのが出てきたわけでございます。

このデジタル化につきましては、現在、様々な会社が出しておられます。J I C C I、M a c h i L i n k、Y u m i c o m、あと、M y 自治会、C o c B a n など、様々なあるんですが、本市は、C H I K U W A ! というアプリを導入したということでございます。このデジタル化は担い手不足解消に有効であると本市は考えているのか、また回覧板の電子化による効果をどのように本市は考えているのかお伺いします。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 自治会のデジタル化でございますが、連絡や調整、文書の配付等に係る負担軽減のほか、自治会に関する情報に接する機会が増えることというのが期待できるというふうに考えております。こうしたことが、自治会活動への理解や参加の促進につながったり、負担感の低減等によりまして、新たな担い手が創出

されればと強く期待しているところでございます。さらに、回覧板が電子化されることで、速やかな情報共有が可能となりますほか、それから、いつでも回覧の確認というのが後でもできるということなどがございます。これまで以上に、そういったことから、周知を図ることができるなどの効果があるのではないかというふうに考えております。以上です。

○渡辺議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。かなり有効であるというように考えてらっしゃるということですね。

確かに回覧板を回す件数が例えば半分になるというだけでも、自治会の構成しておられる住民の皆さんの負担感ということも相当に減るということと、あと、若者を中心にやはりスマホの普及率が高いということ、これ、データによりますと、今、96%の方が持ってるんじゃないかと、スマートフォンをということで、各家庭のデジタルデバイスの普及率も92%というふうな数字を聞いております。そういった中で、このデジタル化を推進していくということは、非常に重要であると思うんですが、一方で、高齢者への配慮ということも必要であると思います。本市の見解を伺います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 議員御指摘の高齢者への配慮に関しましては、実情に応じて当然必要なことだというふうに認識しております。自治会のデジタル化により、高齢者への自治会内の情報が届きにくくなったりだとか、それから、つながりが希薄になってしまうということは、本末転倒であるというふうに考えております。したがって、自治会員の方それぞれの状況等を踏まえまして、共通認識

を得ながら、デジタル化を進めていくことが肝要かというふうに考えております。また、自治会内で操作を教え合うということなど、異世代の交流の場というふうになったりだとか、新たなつながりづくりの場というふうになり、二次的な効用が発揮されるということも実態として伺っておりますし、今後また発揮されるということも期待しておるところでございます。以上です。

○渡辺議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。高齢者にかかわらず、やはり私、スマホ苦手だわということで、旧来の携帯を持ってらっしゃる方も、私、知り合いに何人かいらっしゃいます。また、一方で、私、88歳の母がいるんですが、母はもうスマホもタブレットももう使いこなして、いろんなところから通販でやってくるんですけども、ちょっと困ってるんですけども、そういった元気な人もいるということでございます。こういった対応策、弱者への対応ということは非常にさせていただいて当然かなと思うんですけども、一方、やはり冒頭に出た紙媒体との併存ということが残ってしまうのかなというふうに思うんですが、本市としては、このペーパーレス化が進む中、紙媒体の使用期間というのはどれぐらい併存、残すべきだというふうにお考えでしょうか伺います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 本市から自治会に対するお知らせ等につきましては、地域の状況でありますとか、要望等を踏まえながら、デジタル化を進めていきたいというふうにまずは考えております。その一方で、日常でデジタル端末を使われない方等への周知ということを行っていくという観点でございますが、当面の間は、デジタル

と紙媒体の併用というのが必要になってくるんじゃないかなというふうに考えております。以上です。

○渡辺議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。これについてなんですけれども、やはりこれ、いつまで続けるのかという話なんですけれども、要するに、デジタル化というのが進捗しつつあり、そして、年々、高齢でお亡くなりになる方もいて、新しい方にどんどん世代が替わっていく、移り行くという中において、いつまでこれを超えるのかということについては、ある程度の目標値を設定していく必要があるのではないかと私は考えております。ペーパーレス化というのが進んでも、紙媒体はもうある程度残すというお話なんですけど、進捗率といいましょうか、デジタルデバイスへの切替え、例えば自治会の加入状況であるとか、そういったものをタイムリーに市民にお知らせしていくことによって、例えば、あれ、うちやってないけど、うちやらないのかとか、いろいろ地区内で利便性というのが広く伝わるようになって、そして、背中を押すような形で、具体的なエビデンスとして数字を示していくというようなことは、私は非常に必要であるというふうに感じております。その上でですけれども、高齢者、先ほども出ましたけれども、高齢者など、デジタル弱者と言われる方、高齢者には限らないんですけれども、そういった方に対する対応策というのは、現在、スマホ操作などを教えてというのはやってらっしゃると思います。具体的にどういうことをやってらっしゃるのかお伺いします。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 本市におきまして、スマートフォンの操作で

ございますとか、利用の初心者の方を対象としたことについて、具体的にということでございますが、公民館学習講座というのが一つございます。それから、米子市スマホよろず相談会というのを開催して対応を行っているところでございます。以上です。

○渡辺議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。要するに、そうやって高齢者であるとか、そういうのに疎い方などにどんどん広めていくということで、そうなってくると、冒頭出たような高齢者への配慮というの、もちろん引き続きは必要であるんですけども、やはり習熟度が上がってきた、上がってくる、そういった前提において、本市として将来的にどのような自治会のDXを目指していくのか、またそういったものを全自治会へのデジタル化の普及、展開を想定してらっしゃるのか、それとも、してないのかお伺いします。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 自治会運営の効率化、負担軽減によりまして、自治会内の情報共有でございますとか、意思疎通が行いやすくなるということから、自治会活動の活性化や住民同士のつながりの強化に注力できることが重要であるというふうに考えております。そのために、自治会のDXは有効な手段というふうに考えているところでございます。自治会により運営方法でありますとか、活動内容というのは、やっぱり様々でございますして、全自治会に導入というのを強いることはなかなかできないのではないかというふうに考えておりますものの、課題解決に有効な手法であることは間違いございませんので、そういったことにつきまして、自治会DXの普及に努めたいというふうに考えておるところでございます。以上です。

○渡辺議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。有効であるということをお認めいただいているので、もうこれはそのまま進めていただきたいと思うんですが、そうすると、市としての目標値、達成を何年後に、もうこれでいいだろうというところまで持っていくという部分について、何年後を想定してらっしゃるのかお伺いします。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 この自治会運営支援アプリの導入でございますが、現在、7月1日の運用開始をしている自治会が64、それから、今度の8月1日から運用開始予定ということで24の御希望いただいております。当面88の自治会ということでございまして、この導入に当たりましては、現在の目標としましては、100の自治会というのを今年度の目標として進めたいというふうに考えておりますが、その100が4年間で、じゃあ、400になるから、全てなるかと言われると、なかなかそれは難しいところでございますので、また状況を見極めてやっていきたいというふうに考えております。以上です。

○渡辺議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。ネットの情報によると、やはり全国的な公式の統計というのはないんですけども、専用アプリ、こういったC H I K U W A !のようなものの専用アプリの普及率というのは、大体、全国で3割から6割程度でもう頭打ちになるんだというふうに書いてあります。非常にこれは現実的なのかなと思いますけれども、より使いやすい無料のL I N Eを代用して使うというケースもありますし、例えば先行事例で旗ヶ崎2区自治会さんなんかの

ように、やはりそういったリテラシーの高い自治会員の方がいらっ
しゃって、そういった方の主導で単発的にあるということは見てと
れます。私の住んでいる五千石でも、今、そういったものについて、
そういった知識をお持ちの方のプロジェクトチームをつくって、や
ろうかという動きもございますが、やはり全市的にこれを効率的に
進めていくということを考えますと、先ほど409自治会で、10
0だから、じゃあ、4年後かといったら、そうはならないって、こ
れは私もそう思うんですけれども、やはり時系列的に可視化した実
行計画を工程表として作成する、いわゆるロードマップを策定して
進めるべきではないかと考えるんですが、本市の見解を伺います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 まずは、アプリそのものの認知度向上という
のを進めさせていただきたいというふうに考えておりまして、さら
に、アプリの紹介でありますとか、アプリの活用方法等について周
知を図ってまいりたいというふうに考えてございますので、現時点
でロードマップの策定までは考えてないというところでございます。
以上です。

○渡辺議長 田村議員。

○田村議員 策定しないということなんですけれども、やはりこれ、
いつまでやるのと、要するにその目標をあらかじめ市民の皆様に、
こういう便利なものあるんですよということをお示しするのに、い
つでも、やってもやらなくてもみたいな感じだと、やはり自治会に
よっては、もうしゃんもんせでもええがなみたいなことで、長老の
一言で終わってしまうということも十分に想像できます。私も実際
に、それを取り組もうとした自治会長さんが、長老の方から、しゃ

んもん困あわと、今まででええがなと言われたんで、やめたというお話も聞いております。やはりそういったことが厳然として残っている状況の中で、この自治会D X化を進めていくということについては、ある程度のリーダーシップを市が取っていくべきではないかと今思っているところであります。

このC H I K U W A ! の導入時に設定や登録など、自治会の役員にやはり一定の負担というのが生じております。これについて市はどのような支援を行う見解か伺います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 自治会でアプリを導入する際には、基本的な操作のほか、初期設定が必要な内容についても説明を行うこととしております。また、電話や来庁されての相談にも随時対応しております。また、引き続き導入支援を図っていきたいというふうに考えております。以上です。

○渡辺議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。導入支援をしていただくということなんですけれども、初期設定の導入支援員みたいなものの地区派遣というものはあり得るのか伺います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 初期設定導入支援員という名称をつけた支援員というのは設定していないところでございますが、アプリ導入時には、地域振興課の職員が導入支援の一環として説明を行いますとともに、必要に応じて設定の支援も行っているところであります。各自治会において、アプリの管理者となる方などにつきましては、状況に応じて勉強会を設定することも想定しております。あわせて、

自治会同士でありますとか、自治会内での情報交換や相互に教え合っていたりすることというのも、地域のコミュニケーションの活性化につながるものと考えております。以上です。

○渡辺議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。次なんですけれども、先日、公民館のW i - F i を利用したC H I K U W A ! の接続ができないという声がありまして、すぐ、私、市役所に連絡をし、対応を取っていただきました。この原因、こういったものだったのかお伺いします。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 御連絡のほうありがとうございました。これにつきましては、公民館W i - F i というのがございます。これがC H I K U W A ! の管理画面だとか、それから、アプリの接続ができなかったということがあったというふうに伺っておりますが、この原因につきましては、本市の高いセキュリティーシステムがございまして、このC H I K U W A ! に関係する通信内容をブロックしてしまったということが原因でございました。御指摘をいただきまして、早急に必要な対応を取りまして、公民館W i - F i からC H I K U W A ! の利用ができるようになったところであります。以上です。

○渡辺議長 田村議員。

○田村議員 早急な御対応、まず、こちらからもありがとうございました。

それで、このC H I K U W A ! の初期、最初の段階で、今はいいかなというような自治会が今後いつでも加入ができますよという体制を整えておいてあげるということは、私は必要なんじゃないか

なというふうに考えておりますが、こういった全自治会、あらかじめ、こういった全自治会の団体番号ですね、こういったものを採番して、おたくはこの番号ですよと、使うときになったらいつでも言ってくださいねというような体制というのは取れないものかお伺いします。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 C H I K U W A ! アプリの関係でございますけども、これを導入する自治会には、固有の団体番号というのが、申込みをしまして初めて割り当てられて、アプリの使用が可能となります。その割当てと同時に使用料が発生してまいります。でございます、あらかじめ、私どもで固有の団体番号というのを用意して設定する予定はございません。以上です。

○渡辺議長 田村議員。

○田村議員 これは仕方がないですね。お金が、使わないのに金がかかってしまうというのは、これはもう仕方がないということになりますので、やはり従来のやり方で加入促進を図っていただくということになろうかと思います。

デジタル化というのが進んでも、やはり紙媒体とこのアプリ等の併用というのがしばらくは続くということが、今お示しいただきました。しかしながら、もう一つの情報伝達的手段として、行政防災無線というのがございます。これについては、先議会で、昨年の議会で、まちの小さなイベント、鎮守の祭りとか、自治会単位のお祭りなどでも、こういったものの使用ができないかということで、防災安全監より、使ってよろしいとお声をいただいたので、先日、早速、私の地元、五千石地区の八幡、巨勢神社というところでの小さ

いお祭りに、この防災無線を使わせていただきました。この防災無線を聞いて来たという方もいらっしゃるして、昨年より2割増しの方に来ていただき、屋台のものも全部売り切れちゃったということで、非常に喜びの声を頂戴しております。こういったことを考えますと、やはりこういったアプリ、そして紙媒体、そして防災行政無線、この役割分担というのをしっかりと取って、地域住民に対する情報伝達というのを重複化してやるべきだというふうに感じております。本市の見解を伺います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 CHIKUWA！アプリでは、機能的なお話になりますが、地区単位での地域情報の発信というのが可能になっております。今後、地域住民の方への広報、周知手段として活用いただけるものというふうに考えております。一方で、地域においては、平時における防災行政無線を活用した広報でありますとか、周知も行われております。内容に応じて複数の情報媒体の利用が可能であるというふうに考えております。以上です。

○渡辺議長 田村議員。

○田村議員 この項、最後の質問になります。今後もそういった地区情報、小さいイベント、そういったものも防災無線を使ってよろしいというふうにおっしゃっていただいたと理解しました。米子市の多くの地区で、そういった防災無線の利活用をしっかりと図っていただけたらというふうに思います。

最後の質問ですが、現状、デジタル化については、先ほども言いましたけれども、各自治会の判断に任されていて、これは足並みがそろっていない状況があります。これについては、やはり本市がし

っかりと主導で前に進める、そういった気概を持っていただきたいと思いますし、このデジタル化推進について、1 とつけたのは、今後この課題に向き合いたいと思っている所作でございます。本市が主導でこれは進めていただきたい、要望しますが、見解を伺います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 自治会のデジタル化でございますが、負担軽減や情報共有など、様々な面で有効な手段というふうに認識はしております。一方で、自治会により運営方法でありますとか、活動内容というのは非常に様々でございます。現段階での全ての自治会で、このアプリが必要であるわけではないということも承知しているところでございます。自治会の実情に応じてデジタル化が検討され、適切なタイミングでアプリの導入が行われるよう、引き続き導入支援を行ってまいりたいと、このように考えております。以上です。

○渡辺議長 暫時休憩します。

午前 11 時 58 分 休憩

午後 1 時 00 分 再開

○今城副議長 休憩前に引き続き会議を開き、市政一般に対する質問を続行いたします。

田村議員。

○田村議員 それでは、よろしくお願いいたします。

続きまして、米子城跡の復元とにぎわい創出について・21 ということでお尋ねをしてみたいです。

これについては、米子城については、私、今4期目ということで、もう13年目ということになります。その間、様々な変化がござい

ました。伊木市長の英断の下、所管を教育委員会から経済部に移していただき、そして、様々な基本計画等が策定され、現在に至っていると。また、今年の秋には三の丸広場が完成するということで、目まぐるしく変わってきた米子城跡でございます。私も様々な提案を聞いていただき、また、それが実現している状況を鑑みて、本当に感謝しておりますし、これについては、もう私のライフワークとして、議員である以上、続けていくというふうにお誓い申し上げたいと思っております。

その上でお尋ねします。三の丸広場の整備を含め、現在の全体の整備状況をお尋ねします。

○今城副議長 成田文化観光局長。

○成田文化観光局長 三の丸広場につきましては、本年10月の供用開始に向けまして、芝張りや園路、内堀跡の舗装を進めているところでございます。また、今後の登城路の整備に向けまして、現在、内膳丸別れから本丸番所跡付近の発掘調査を実施しているところでございます。以上です。

○今城副議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。この整備がどんどん進んでいくというのは、これ、市民の皆様誰もの、誰しも関心を持っておられるということで、私も選挙運動期間中、様々な方から、どうなるんだということのでかなりの御期待の声を様々に頂戴をしたところでございます。この進捗については、引き続き着実に実施していただきますようお願いを申し上げたいと思います。

続きまして、三の丸広場の完成というのは、非常に本市にとっては対外的に経済的にも観光面でもインパクトの強い行事になろう

かと、その完成そのものがですね、というふうに思います。私は、これは本当に非常に、私がいつも言ってる打って出るという言葉のとおり、全国に発信をして、これは打って出る米子市として広く広報していくべき、そのように考えております。様々な手段あるかと思いますが、そういったものを含めて、対外的発信について、本市はどのような見解かお伺いします。

○今城副議長 成田文化観光局長。

○成田文化観光局長 三の丸広場につきましては、米子城跡の表玄関でございまして、整備の大きな節目となりますことから、このたびの完成イベントにつきましては、県外イベントでの周知ですとか、SNS発信など、様々な媒体を活用いたしまして、幅広く周知を行っていく予定としております。以上です。

○今城副議長 田村議員。

○田村議員 様々な周知ということで、どういう周知なのかなというのは、ぜひ事前に教えてほしいなと思うわけなんですけれども、よく他市さんなんかで行われるこういったお城のイベントについては、もうお城祭りという名前なんですね。米子城跡については、米子城何とか、フェスタとか、イベント名が非常に軽いといいましょうか、我がまちを代表するお城を前面に出したということであれば、本当にお城祭りという形がいいんじゃないかなというふうに感じております。このイベントにおいては、鳥取城さんなんかやられたような、鉄砲隊の誘致であるとか、武者隊の行列であるとか、お城の情緒、城下町情緒を感じられる、そういったイベントにするべきだというふうに感じております。これについての見解をお伺いします。

○今城副議長 成田文化観光局長。

○成田文化観光局長 三の丸広場の完成イベントにつきましては、幅広い世代に楽しんでもいただける企画を検討しているところでございます。武者隊ですとか、鉄砲隊の演武につきましても検討しておりまして、現在、関係機関との調整を行っているところでございます。以上です。

○今城副議長 田村議員。

○田村議員 そういった検討がなされているということで、安心しましたし、ほかにも様々、近隣、松江城さんとか、様々にやっております。そういったものも参考にして、本当により多くの人が集まる、そういったイベントにしていいただきたいなというふうに思っております。

そんな中、私、米子城についてしつこく質問している議員ということで、結構周知いただいております。ある市民の方から、ちょっと田村さんよと、三の丸広場の何か黄色い塗装がああけど、あれは何だという声をいただきました。私も気にはなってたんですけど、あれが完成形だと思ってなくて、いや、何かの下地で、何かそういう塗装なんじゃないかなというふうに私はお答えしたんですが、現状、そのままなのか、なぜあの色なのかということで、ほかにも聞いてみますと、うん、何でというようなお声をたくさんいただきました。登城路の整備について、あの階段がちょっとピンクじゃないかということで、何か色合いとしてどうだということで、私もこれは議会で質問させていただきましたが、その際は、経年によって山になじむ色ということで、そういう指定だったということで、私は了承してるんですけども、今のこの黄色い部分に関しては、ち

よっと了解ができかねるというか、何でだろうと違和感を感じております。この見解をお伺いします。

○今城副議長 成田文化観光局長。

○成田文化観光局長 三の丸広場の整備につきましては、三の丸に確認されました江戸時代の遺構の規模や形状を平面表示するに当たりまして、明るめの土をイメージとしたカラーを採用しております。カラーの決定に当たりましては、遠方からの視認性も考慮いたしまして、二の丸ですとか、本丸から三の丸を展望したときに、内堀の位置ですとか、規模が一目で分かるものとしたところでございます。なお、現在は施工直後でございますので、発色がよい状態になっておりますが、以前、登城路を整備した際と同様に、経年変化により落ち着いた色合いに変化していくことを想定しているところでございます。以上です。

○今城副議長 田村議員。

○田村議員 ちょっと安心しました。経年でなじむということでございます。多くの方がやはりそういう違和感を持ってらっしゃるので、これについては、ぜひ市報等で、そういったものも広報されてはいかがでしょうか。個人的に私もいっぱい聞くんですけれども、やはり一人じゃちょっと宣伝し切れません。そういった違和感というのを感じてらっしゃる市民向けの広報をぜひお願いしたいと思っております。

続きまして、駐車場が三の丸番所ができたことによって、大体10台近く、八、九台ぐらいですかね、止まるスペースが、車の駐車台数が狭くなって少なくなっておるところであります。この内堀道路沿いの舗装エリアというのがございます。そこの長細い

エリアを例えば、今後、暫定駐車場等として活用するということはできないのか伺います。

○今城副議長 成田文化観光局長。

○成田文化観光局長 三の丸広場の内堀跡につきましては、整備基本計画に基づきまして、その内側が三の丸であることを実感できるよう、明確に区分しておきまして、平面表示により遺構の存在を示しつつ、地中に保存することとしております。活用方法といたしましては、キッチンカーなど、一時的なイベントでの活用は可能でございますが、国の補助事業により整備をしていること、また何より貴重な遺構を保護するという本来の目的を踏まえますと、駐車場としての利用は認められないというふうに考えております。以上です。

○今城副議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。ただ、キッチンカー等、イベント時の使用は想定されると、そういうことですね。それなら了解です。要するに車が入れるエリアというのが非常に限られるという中で、来場される方の駐車スペースというのも確保しなければいけない、そういったことを考えると、やはりそういったところは柔軟な対応というのをしてもいいのかなというふうには私は思いますが、ここは了としておきたいと思います。

続きまして、全国で白壁、石垣の上の白壁の復元による城跡の景観向上というのが進んでいるというところでございます。明石城なんていうのも、白壁をびしっと整備をされて、いかにも城跡というような、天守であるとか、大きいやぐらは存在しませんが、そういった往時の姿をしのぶ、そういった手法でもって整備をするという市町は、ほかにもございます。特に本市の整備基本計画にお

いて示されたパース図においては、内膳丸から本丸にかけての白壁の復元等が含まれております。これについては、市民の方も非常に喜んでおられまして、これだったら城跡だわというようなことでございますし、私も歴史的建造物の復元整備というのは長年訴えてまいりましたが、取りあえず、手始めといたしましょうか、まず最初に行うべきは、そういった白壁の整備であるというふうに私も考えております。こういったものについては、この三の丸の広場の整備というのが一段落、一つの区切りを迎える中、米子城跡においても、この白壁復元、これは具体的な検討をもう始める時期に来てるのではないかと考えますが、本市の見解を伺います。

○今城副議長 成田文化観光局長。

○成田文化観光局長 米子城におきましては、今後、二の丸や内膳丸などの保存整備方針の検討を進めていく中で、現存する遺構の保存を前提といたしまして、白壁の復元の可否を判断することになると考えております。なお、今後は、二の丸などの発掘調査に向けた環境が整い次第、順次調査を行いまして、遺構の有無を確認した後に整備内容を検討することになります。以上です。

○今城副議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。こういった発掘調査というのは順次やっていくということも以前から伺っておりますし、二の丸の整備ですね、これも県立の博物館に図面も残っておりますし、復元可能だというふうにも言われております。今のテニスコートを、もう既に掘った状態なので、どこをどう掘るんだろうというのはちょっと私も不思議に思ってるんですけども、しっかりと遺構を確認し、その規模感、そういったものが明らかとなった上は、やはりそういつ

たものについても、米子城を構成した歴史的構造物としての復元と
いうのを目指していくべきだというふうに、これは指摘したいと思
います。

その上で、歴史的構造物の復元に向けた調査費の計上であるとか、
基本構想の策定、こういったものも並行して、そろそろ始めてもい
いのではないかというふうに思っておりますが、それについての見
解をお伺いします。

○今城副議長 成田文化観光局長。

○成田文化観光局長 構造物の復元につきましては、歴史的正確性
とそれによって高まる歴史的な価値を将来にわたって担保する必
要がございます。今後、二の丸や内膳丸の保存整備方針を検討する
過程におきまして、史資料の調査ですとか、発掘調査を実施いたし
まして、正確な復元を実施できる学術的な根拠が得られれば、その
時点で判断することになるというふうに考えております。以上です。

○今城副議長 田村議員。

○田村議員 根拠が得られればということでございます。根拠は得
られると思います。これ、物ができて、ああ、あったわといって、
じゃあ、考えようかではなくって、やはりそういうものを想定しな
がら、もう既に図面も残っておって、配置も明らかとなっている四
重やぐらであるとか、そういったものについても、この整備基本計
画のロードマップの中ではうたわれておった時期がございました。
そういったものについても、一旦、今消えてますけどね、四重やぐ
ら復元検討という文字が。そういったものも、もうあれから10年
近くたっておりますので、やはりもう先送りはできないというふう
に思いますし、市民はそれが非常に期待をしているということでご

ざいます。これは市民の夢でもありますし、ぜひとも早い段階での策定、これをぜひ検討いただきたいというふうに考えております。強く要望したいと思います。

続きまして、下町周辺、城下町の中で、まちなか観光案内所周辺で、ベトナム料理店であるとか、ゲストハウスの出店が相次いでおります。こういったものを非常に私も喜んでおりますし、これは、以前、副市長にもお話しいただきました、こういった支援については、本市としてやっていくと、やっていただけたということで、私もこの場で感謝を申し上げたところでございますが、今後、こういったものの、さらにそのエリア、あのエリアを、交差してる部分を核として、さらににぎわい創出に資する出店の誘導、そういったものをさらに広げる、そういったものの支援策というものは何かほかに考えられないのかお伺いします。

○今城副議長 成田文化観光局長。

○成田文化観光局長 本市におきましては、空き家や空き店舗などの遊休不動産の利活用を促進するために、本市と地元金融機関が共同出資しております、よなご住んで楽しいまちづくりファンドを運営しております。このファンドの活用を広く促すことによりまして、さらなる出店を後押しし、城下町周辺エリアのにぎわい創出を図ってまいりたいというふうに考えております。以上です。

○今城副議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。このまちづくりファンドというのは、もちろんすごい大事なことですけれども、共同出資でやっておるというよりも、できたら、やはり県等もされてらっしゃるようなインバウンド等の誘導に関する、そういった支援の補助メニューと

いうものも併せてやっていただけると、こういったゲストハウスであるとか、そういったものも増えてくるのかなというふうに感じております。様々に、こういう出店を希望される、これは若い子たちが多いんですけれども、そういったものをしっかり背中を押してあげられる、そういった支援策を拡充いただければと思います。これも要望したいと思います。

次です。米子城跡と加茂川を結ぶにぎわい空間として、K A M O G A W A リバーサイドというエリアが誕生いたしました。私もオープニングイベント、同僚議員の三木議員、そして、同じく新人の新政自民の若い新人議員の皆様方と一緒に参加をさせていただき、非常に新しい米子の魅力というものに触れることができました。こういったものを、やはりにぎわい創出の空間として活用していくべきだというふうに感じます。本市の見解を伺います。

○今城副議長 伊木市長。

○伊木市長 本市が開催をいたしました観光関係事業者との意見交換におきまして、加茂川周辺の事業者が主体的ににぎわいの創出を目指していく機運が高まり、このたび、K A M O G A W A リバーサイドがオープンすることとなりました。このエリアにつきましては、議員が御紹介されましたとおり、飲食店や、あるいは宿泊施設などの出店が相次いでおりますことから、本市といたしましても、機会を捉えまして、K A M O G A W A リバーサイドを含む加茂川エリアの情報発信に努めていくとともに、活用策につきましても引き続き事業者の皆様と意見交換を続けてまいりたいと考えております。

○今城副議長 田村議員。

○田村議員 ありがとうございます。本市が開催した意見交換会というのがきっかけとなったということで、私も非常にありがたいなというふうに思います。そういったきっかけをつくったということでもありますので、引き続き支援のほうもお願いしたいなというふうに思います。

この加茂川の利活用ということについて、私も以前、常設のテラスがあって、そこで飲食、軽いお酒が飲めたりとか、簡単なビールが飲めたり、そういったものをやれば、にぎわい創出、恒常的なものになるんじゃないかという御提案したことがございます。そういった可能性についてお伺いします。

○今城副議長 成田文化観光局長。

○成田文化観光局長 K A M O G A W A リバーサイドテラスにつきましては、民有地に整備された施設でございまして、民間事業者の取組でございます。常設テラスの設置につきましても、民間事業者の意向によるところではございますが、本市といたしましても、米子港、城下町エリアでテラスなどを活用してイベントを開催される際には、イベント開催応援補助金などの活用を促しまして、にぎわい創出の支援をしてまいりたいというふうに考えております。以上です。

○今城副議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。支援については、引き続き検討いただきたいと思えますし、この常設テラスというものがもしあれば、やはりそこでのイベントをできますよというようなことも広報できるんじゃないかな、そういうことを考えております。

これをさらに魅力を高めて、夜の消費につなげる、いわゆるナイ

トタイムエコノミーにつなげるためには、私も前議会、以前から御提案申しております、白壁土蔵群のライトアップというものがございいます。私も選挙でお訴えしたところ、もう本当にポジティブな意見を多数頂戴しております。こういったものを下町まで回遊性を高める夜間景観の整備というものを一体として進めていくべきではないかというふうに感じております。そういったものの整備、進めるお考えというものはあるのかどうかお伺いをいたします。

○今城副議長 成田文化観光局長。

○成田文化観光局長 加茂川護岸におきましては、令和3年まで加茂川まつりに合わせまして、電気照明による白壁土蔵のライトアップを実施しておりましたほか、近年では、キャンドルナイト in 加茂川といたしまして、ろうそくによるライトアップが行われているところでございます。このような催しにつきましては、加茂川周辺の周遊性を高めるとともに、にぎわい創出につながるものであるというふうに考えておりますことから、どのような夜間景観向上の取組ができるのかということについて検討してまいりたいというふうに考えております。以上です。

○今城副議長 田村議員。

○田村議員 検討してまいりたいということで、前向きな御答弁だったというふうに受け止めたいと思います。

先ほどお話を紹介したKAMOGAWAリバーサイドのエリアで、そこでビール飲めるんですけども、見ると、目の前に後藤家の住宅の白壁が見えるんですが、暗闇の中にあるんですね。こういったものについても、例えば光を当てることによって、城下町情緒というのがさらに醸し出せるというふうに思います。以前、私、御

提案で、地域おこし協力隊の方を中心として、白壁土蔵群のライトアップというのが実証実験されました。再度、この加茂川のリバーサイドからの景観等も含めて、実証実験というのをやっていただきたい、これは要望したいんですが、見解を伺います。

○今城副議長 成田文化観光局長。

○成田文化観光局長 加茂川沿いの白壁土蔵やそのエリアに淀江傘をしつらえたライトアップにつきましては、平成31年4月から令和3年8月までの間に4回行われたというふうに承知をしています。ここ最近、加茂川沿いですとか、下町周辺における出店が進んでおります中、このようなライトアップイベントを行うことは、夜間景観によるにぎわいの創出が期待できますことから、今後、どのエリアでどのような取組ができるのか、実証実験の実施も含めて、検討してまいりたいというふうに考えております。以上です。

○今城副議長 田村議員。

○田村議員 ありがとうございます。ぜひこれは検討していただきたいというふうに思いますし、やれば、本当にすごくすてきな観光空間ができる、夜間滞在空間ができるというふうに断言したいと思います。

最後となりました。米子市として、米子城跡の登城だけで終わらない、回遊型の観光、このビジョン、この可能性を示すべきだと思います。見解を伺います。

○今城副議長 伊木市長。

○伊木市長 議員も御案内のとおり、本年6月に、中海憩いのテラスのオープンを迎えたところでございますし、またこの10月には、米子城跡三の丸広場のオープンを控えております。そうした意味に

おきましては、本市の観光におけます周遊性の向上の可能性と、そして、重要性が高まっていると、そのように認識をしております。そこで、まず、まち歩きを促す周遊のガイドマップ、「よなごじょうおさんぽクエスト」というものがございますけども、これの改訂を図ることで、周遊性の向上を促すこと、そういったことから始めていきたいと考えております。